傳家四合院氏

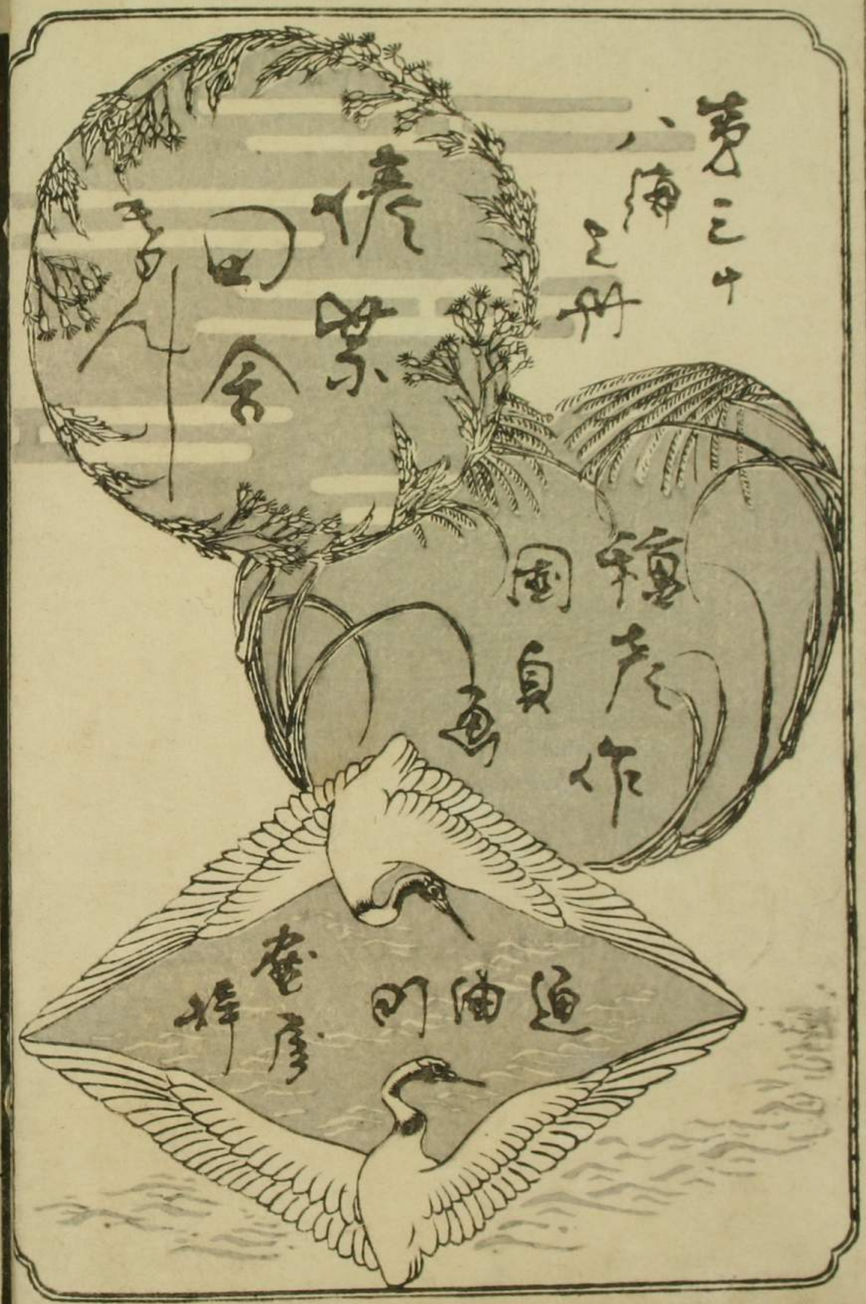
三十八

特別
へ13
4274
38

懐紙

三十八編上

91-2369



延宝四年撰 至来集 定奥の句ゐ「名も似ぜ月を乳丸行燈」といへる句ゐの詞をやつし名ゆも似ぜと其形を雖ぜ乳丸行燈。又近く安永九年の江戸繁昌夜話の序ゐ「女郎の実と玉子の四角ハ無物と歌ひしゐ行燈九・四角ゐ五徳ゲ出来重宝とひしゐ云」と見え延宝より安永まで其ゐ百余年暗合の同論ゐり。今ハ座敷の行燈ハ丸い物のやうゐ心え紙貼で作でつゐ五徳ハ角ゐる物と定まりハ専ゐ流行れ目ゐ訓し故ゆゑ。此草紙ゐ光氏ゲ大將髭と海老の尾のやうゐ割しハ亀戸の案ト。初めの程ハ異ゐ髪とおのれまで思ひ〻ゲ絵ゐ百羽ゐ扱押絵の類。開帳庭の納め物又吉原の軒燈籠。図扇ハのとより煎餅形。悪此次安と写ゐ目訓怪き髪の風ともいへ無ハ前よりあげ〻ゐ二箇器の論の止しゐ是同画の流行せし功ゐるべし。それゐひられて自然拙作も源氏とゐ名ゆも似ぜとゐ誹アもうすらぎゐよく末まで續んと角ゐる五種を孫ゐ假我身勝手を如斯

柳亭種彦誌

種彦作
國貞画

三十八編下

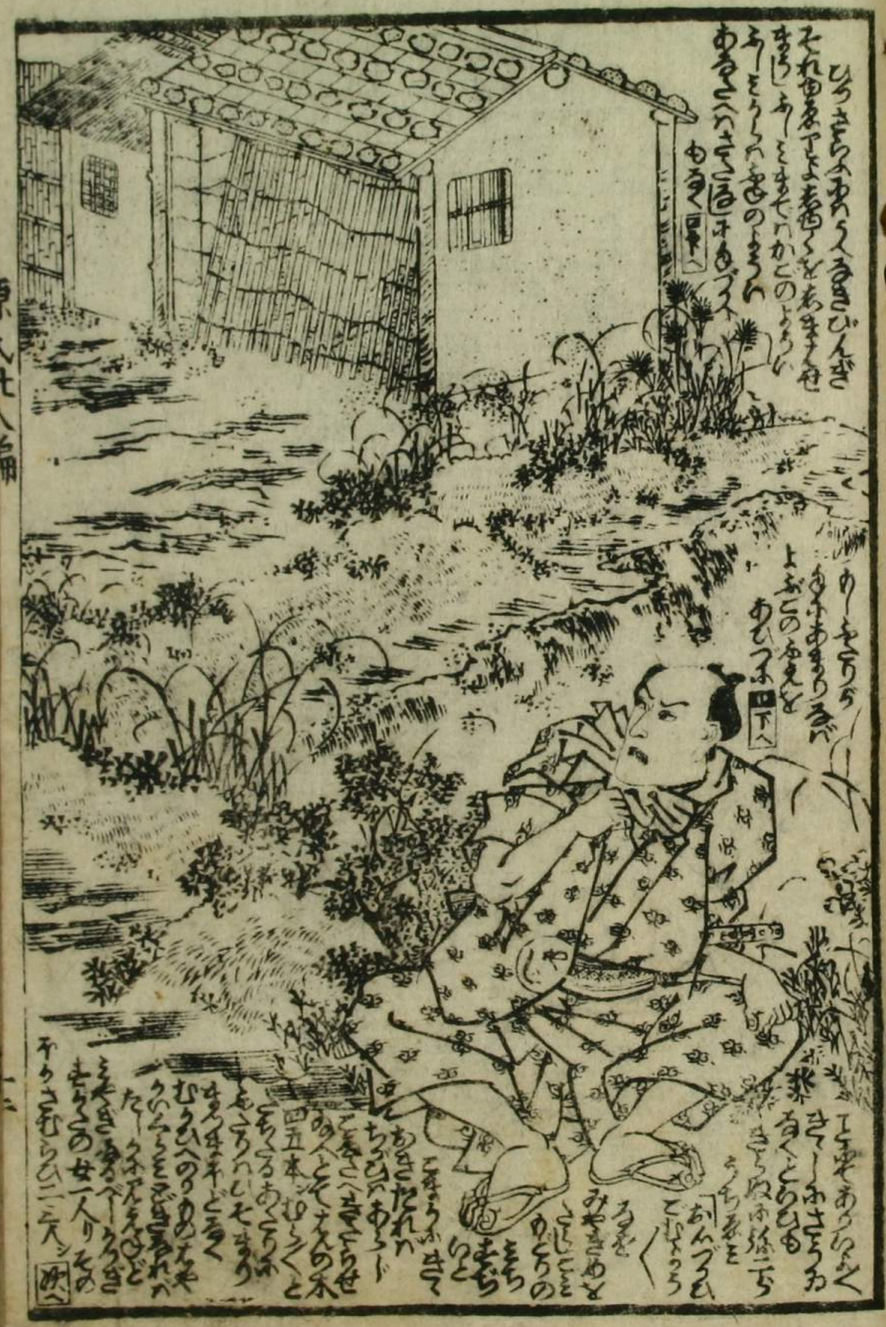
國貞画　種彦作

三十八、海士母

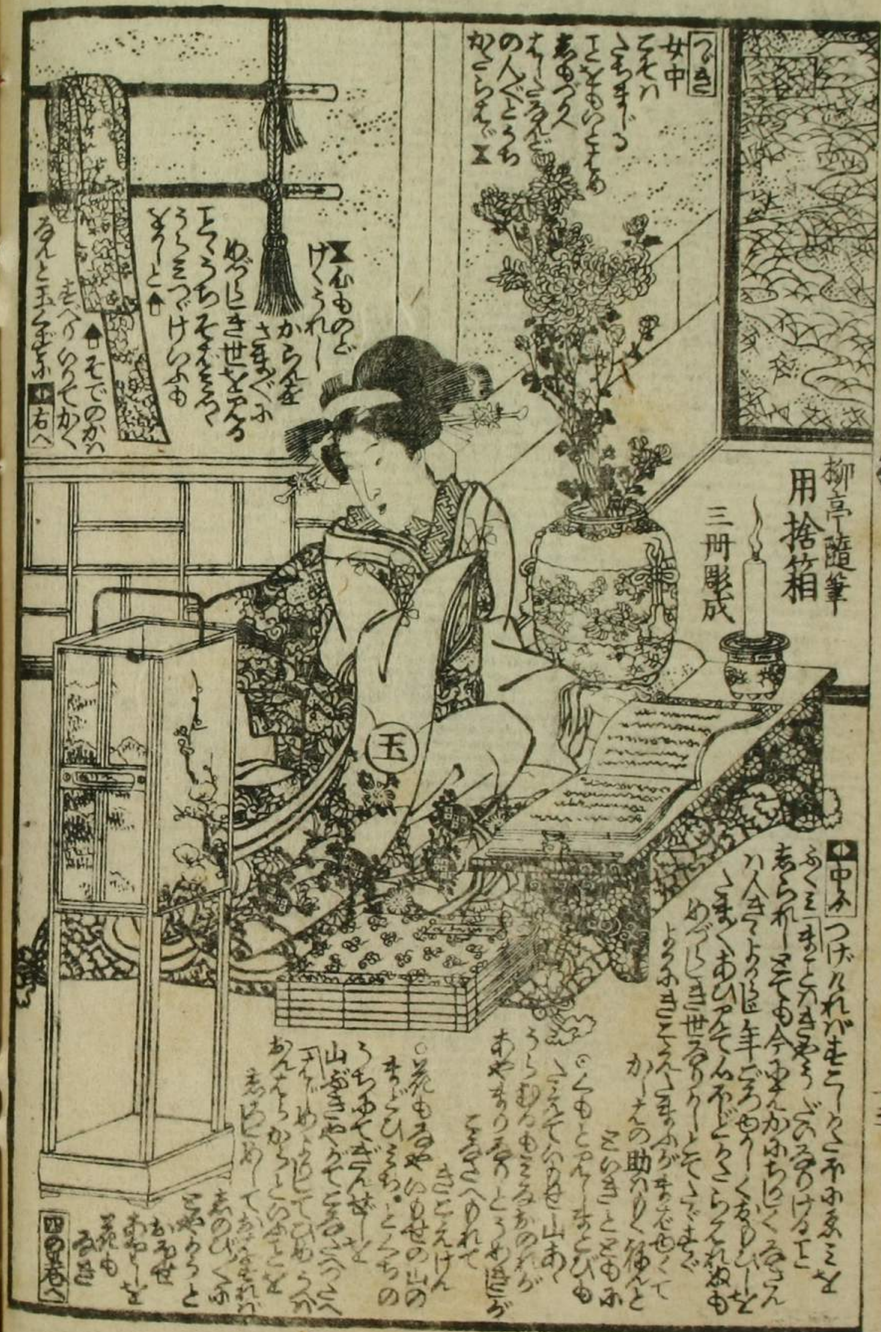
源氏

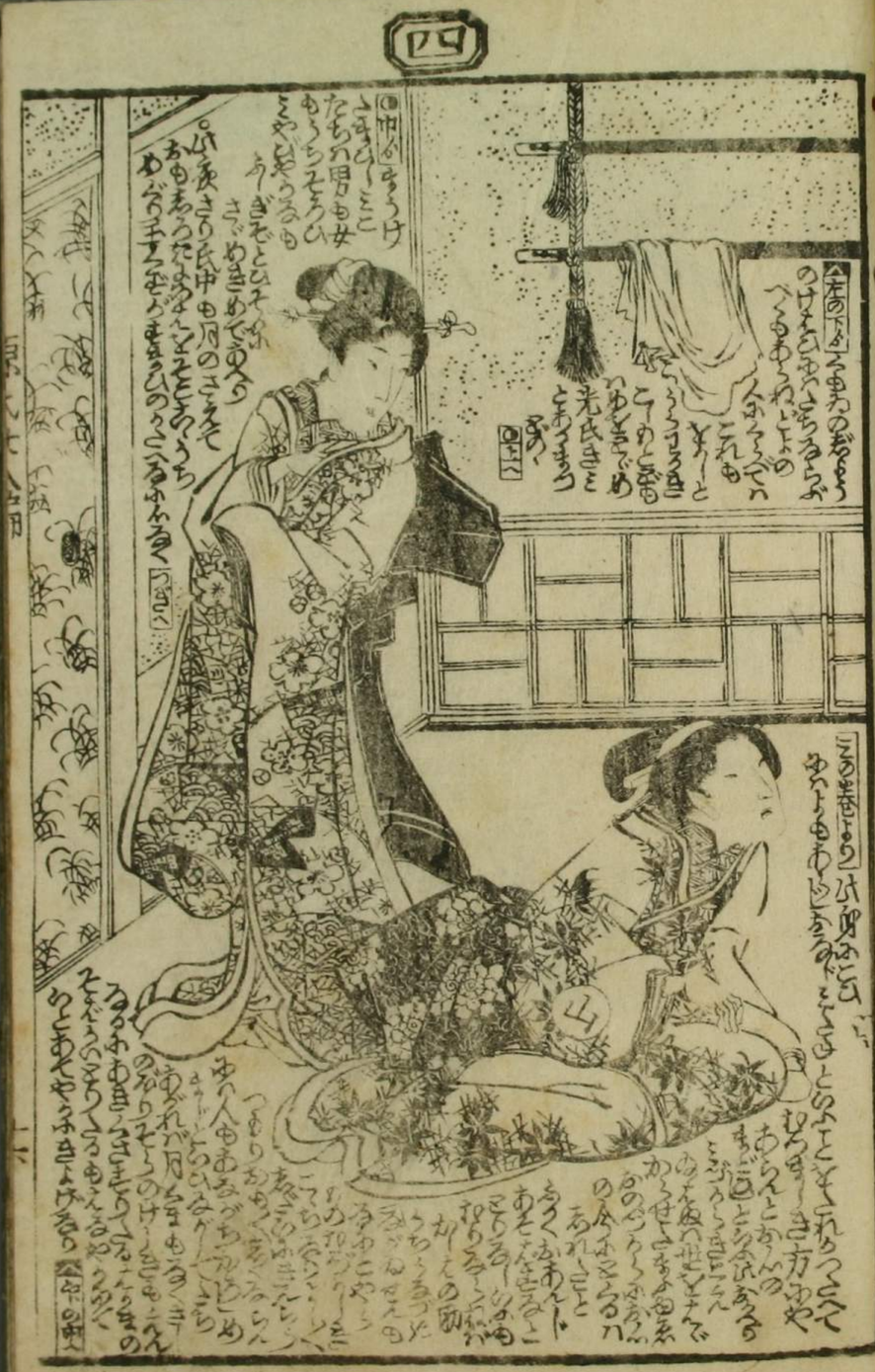
種長作

歌麿画



神
柏


柳亭隨筆
用捨箱
三冊影成
五


四
山

袖

國貞画 種彦作

一色ヲ京紀廉の女 浄書 上冊柳枝 下冊金川 巻衣

衣

つづきそ出板 二十九編 巻ろり

天保十三年壬寅春新彫

修紫田舎源氏

自文政十二年巳丑 至天保十三年壬寅 十四箇年繪草紙

柳亭種彦作

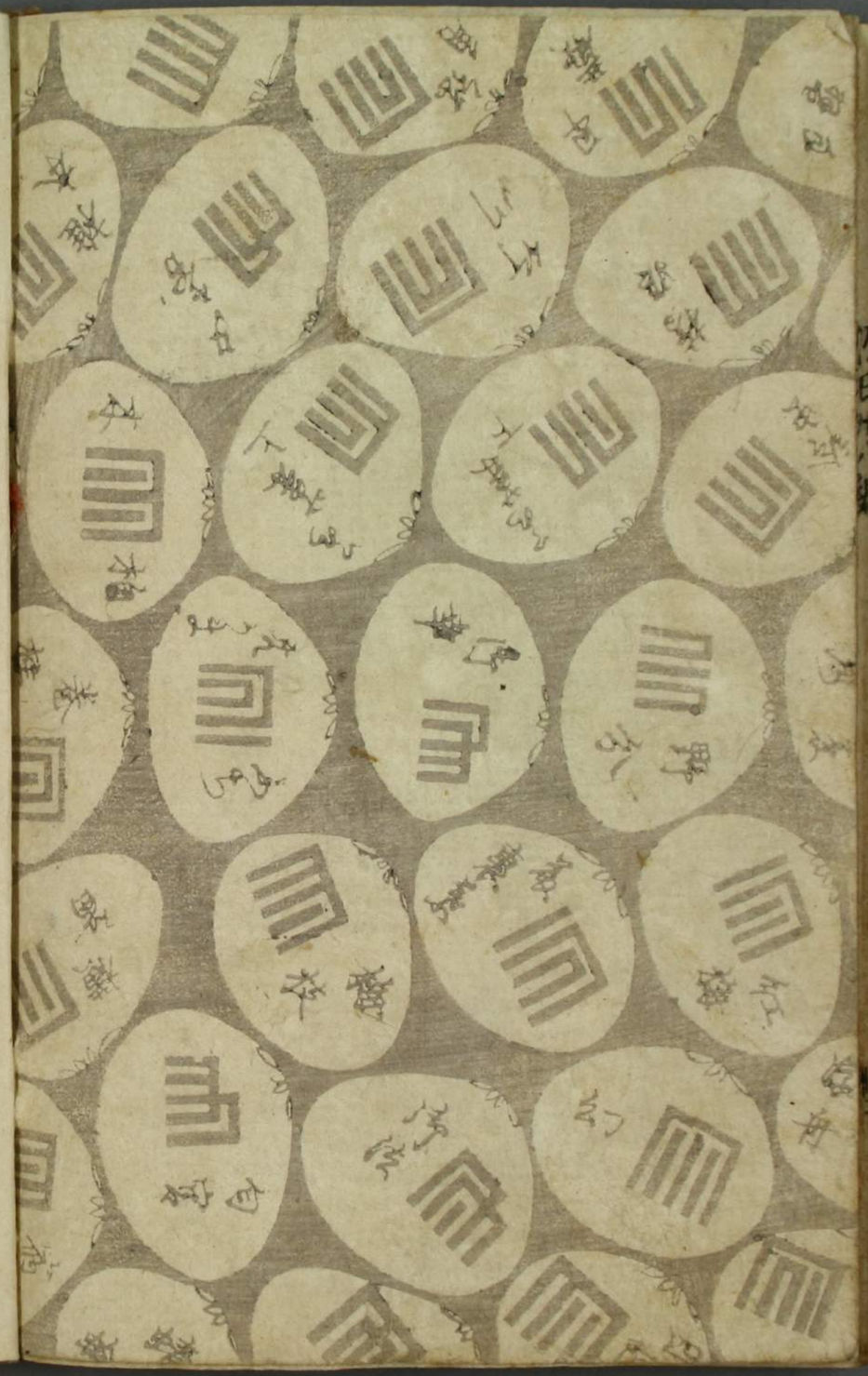
歌川國貞画

三十八編 そで返すまの巻 柳亭去夏より秋くけて病氣のこころ地節漸く快氣仕 いろは草稿出来次第右五帙八冊乃遠閑板仕ル 仙崔堂敬白

四十二編 まそ出板

婚禮雛形 鴛鴦物語 初編四冊二編四冊 山東京山作 歌川國貞画

金澤万八笑増談 松竹園秀山作 五雲亭貞秀画

書物錦繪 團扇地紙 問屋 江戸通油町 鶴屋喜右衛門

美艶仙女香 黒油美玉香 製所 南傳馬町三丁目西側 坂本氏取次